

伊勢市教育研究所

たよ町



<第9号>

http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成 30 年 12 月 5 日
伊勢市教育研究所

伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

教育研究プロジェクト「社会科副読本の活用に係る実践研究」 御園小学校公開授業研究会

「『伊勢たくあん』を調べよう」



10月26日、御園小学校3年B組で社会科副読本「わたしたちの伊勢市」を活用した授業を大東昭彦先生に公開していただきました。「伊勢たくあん」は、平成28年度に「三重ブランド」に認定されました。使用されている「御園大根」は「みえの伝統野菜」に選定されていますが、「現在は御園町内で御園大根が作られている畑を見かけないのはなぜだろう？」ということが、この授業設定の出発点でした。

【本時の目標】

- 昔の御園村では、たくさんの御園大根が作られていたが、今では作られなくなったことが分かる。
- 「なぜ御園村で、御園大根が作られなくなったのか」を学習してきたことや自分たちの生活の様子から考え、話し合いに参加できる。

【本時の指導過程】

- ①「はさがけ」の写真を見て、前時の学習を思い出す。
- ②「御園大根の作付面積」の棒グラフを見て話し合う。
- ③御園大根が作られなくなったわけを話し合う。
- ④漬物業者の方のことを知る。
- ⑤学習したことの感想や疑問を書く。

授業全体を通して、子どもたちの発言はとても活発でした。導入段階で大東先生が「御園大根の作付面積」のグラフのマス킹をはがしながら提示していくと、年代ごとにグラフがどのように変化するかを予想したり、その理由を考えたり知ったりする中で、大きな歓声が上がりました。

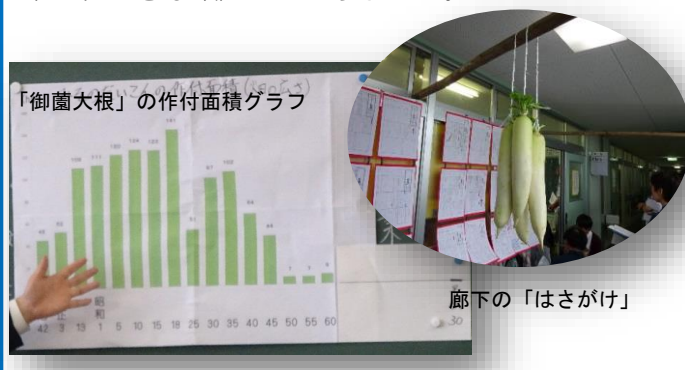


【授業者の思い】

子どもたちにとって、伊勢たくあんや御園大根は当たり前のように身近に存在するものではなくなったという実態のもと、「御園大根を生産している人」、「伊勢たくあんを作っている人」、「販売している人」、「昔の地域の様子を知っている人」など、様々な立場の人たちに出会い、思いを知ることで、子どもたちと伊勢たくあんをつなげていきたい。

【伊勢たくあん情報】

最盛期には御園の9割が大根畑だったとも言われ、漬物業者もあり大阪方面にも出荷されていたが、連作障害、食生活の変化などいくつかの理由で、昭和30年代に生産量が急激に減った。



昔の御菌村では、たくさんの御菌大根が作られていたのに、なぜ、今は作られなくなったのか。

子どもたちから興味深い意見がたくさん出されました。

- C:昔よりも家が多くなってきて、畑で作る場所が少なくなったから。
- C:昔は大根の料理が日本人は好きやったけど、洋食になってきたから。
- C:JAに行ったとき、売っている種を見たけど、いっぱい大根の種類があった。そういうのを作ろうってなって、御菌大根が少なくなったから。
- C:今みたいに便利じゃなかったし、大根を作って売れないよりは、他の仕事をした方がいいから。
- C:ショッピングセンターで買った方が楽やから。
- C:御菌大根はたくあんにしないとおいしくないとか家で言っていたから。たくあんが嫌いな人が多いから。
- C:他のは高くないけど、御菌大根は高い。



【助言者 西 良孝先生 (元 御菌小学校長) の講評から】

◇よい授業は、子どもが安心していて、よい笑いがある。楽しんでいる。今回の授業では子どもたちが終始笑顔で参加し、発言も積極的だった。



◇授業のポイントは「子どもが生き生きしているかどうか」である。それを実現するために授業者が社会科で大切にすべきことがある。

① 適切な題材を選ぶ

今回、題材として選んだ「伊勢たくあん」には授業者のこだわりがあった。その熱意が子どもたちにも伝わり、家族に聞き取りをしてくる子、祖母に「はさがけ」を作ってもらおう子がおり、ついには、「大根を育ててみよう」という活動につながったことは重要である。まさに「子どもたちの頭に残る授業」になった。

② 事例から、一般性・共通性を見抜く

御菌の傾向が伊勢の傾向かもしれないし、県や全国の傾向なのかもしれない。「御菌大根の作付面積」の変化をとらえることが、国全体の傾向や情勢をとらえることにつながるということを学ばせたい。

③ 「勝負できる資料」を集める

地元の資料を探すのが困難ななか、授業で活用できる「御菌村史」や写真、実際に使われていた道具等を発掘することには価値があった。資料の提示の仕方も子どもたちの思考を引き出すうえで重要である。今回の「御菌大根の作付面積」のグラフの見せ方として、タテ軸とヨコ軸の確認をした後、年代ごとに「少しずつ見せていく方法」は有効であった。



手作りの「はさがけ」と漬物桶（樽）

◇指導案作成のコツとして、本時から書くことを勧めたい。

◇子どもたちには、できる限り長くしゃべらせたい。しかし、次の段階としては、伝えたいことをまとめて短くしゃべらせることを大切にしたい。

◇今回の授業では下記の流れを目指すことができていた。

- ①事実認識 (グラフから読み取る)
- ②関係認識 (なぜ、その結果になったのかを考える)
- ③本質認識 (資料に基づいてたどりつかせる)

【参観者の皆さんから】

★子どもたちがよく考え、自分の意見をためらうことなく、いきいきと発言していたのがとてもよかった。普段の積み重ねがあってこそその姿だと感じた。家での聞き取りや調べ学習を行うことにより、子どもたちはもちろん、親や祖父母の代にも地域を見つめ直すよい機会になったと思う。出会い学習や見学をとても大事にされていることがよく伝わってきた。

★子どもたちが疑問(課題)をもち授業に臨んでいること、本時までの学習が結びついて学習が進んでいること、自分の考えを伝えたいという思いをもつ子がたくさんいることが子どもたちの姿から見られ、学ぶことを楽しむ姿がステキだと思った。生産量の少なくなった御菌大根をとり上げ、作られなくなったわけや苦労だけで終わらず、それでも作り続ける人がいて、人の思いの詰まった農作物であり、それを大切にしている人たちがいる町のよさを味わうことをねらいとしたいという授業者のとらえ方がよいと思った。

★グラフの提示の仕方が、1つずつ出すことで、児童全員が参加しやすく、引き付けることができていて盛り上がっていた。見ている自分もワクワクした。

社会科は発見を楽しみ、確かめ、考えを深める科学的な教科です。授業者の大東先生をはじめとして、御菌小学校の教職員の皆さんが、「伊勢たくあん」を大切な題材として位置付け、子どもたちとともに、愛着をもって研究に取り組んでくださったことがたいへん印象的でした。